

ユーラシアへの まなざし： ソ連崩壊20年後の環境問題

2011.6.12 [SUN] **聴講無料**
13:00~17:30 / 12:30開場

定員
お申込み
先着200名

北海道大学 学術交流会館小講堂

ソ連崩壊からちょうど20年経ちました。連邦の構成国はそれぞれ独立し、ロシアのほか新しい枠組みとしてカザフスタンなどCIS(独立国家共同体)が誕生しました。こうした新たな国々と我々との関係はどうでしょうか。

ロシアとの関係はいまだ脆弱で、残念なことに常に緊張をはらんでいます。また中央アジアの国々も豊富な地下資源を有し、経済的に重要ですがそれ以外の関係は貧弱です。さて、みなさんは、ソ連崩壊後の厳しい時代を現地の人々がどのように過ごしてきたか知っているでしょうか。

信頼できる関係を築くためには、まず相手を知ることが大切です。本セミナーでは、われわれと地理的にも近いユーラシアの東北部の自然と人々の暮らしを、具体的な事例から明らかにします。自然がゆっくりと大きく変化する中での、あるいは社会体制が激変する中での人々の生活です。背景にある自然と社会体制の変化についても専門家による解説を加え、もっとも広い意味での環境問題に言及するつもりです。地球環境問題は、国を超えて共有される点で、あらたな、より持続的な関係を築ききっかけにもなるのです。

基調講演

国境について考える

岩下明裕 ●北海道大学スラブ研究センター・教授

シベリア永久凍土と地球環境

杉本敦子 ●北海道大学大学院地球環境科学研究院・教授

講演

【趣旨説明】 阿部健一 ●総合地球環境学研究所・教授

中央ユーラシアの今を生きる

渡邊三津子 ●総合地球環境学研究所・研究員

極寒シベリアの暮らしと地球温暖化

藤原潤子 ●総合地球環境学研究所・上級研究員

川下・風下から取り組む環境共同体構築の試み

白岩孝行 ●北海道大学低温科学研究所・准教授 / 総合地球環境学研究所・客員准教授

パネルディスカッション

【司会】 阿部健一 ●総合地球環境学研究所・教授

石川 守 ●北海道大学大学院地球環境科学研究院・准教授

【パネリスト】 岩下明裕、杉本敦子、白岩孝行、藤原潤子、渡邊三津子

主催 / 北海道大学、総合地球環境学研究所

後援 / 北海道大学低温科学研究所、北海道大学スラブ研究センター、
北海道大学大学院地球環境科学研究院、
北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」、
北海道大学グローバルCOEプログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」、
札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、(財)札幌国際プラザ、北海道新聞社

ユーラシアへのまなざし： ソ連崩壊20年後の環境問題

第9回地球研地域連携セミナー
HOKKAIDO

● 総合司会 村上亜希子

● 開会挨拶 本堂武夫 (ほんどう・たけお) / 北海道大学 理事・副学長

● 趣旨説明 阿部健一 (あべ・けんいち)



総合地球環境学研究所・教授
東南アジア熱帯林で生態学調査を続け、その過程で環境問題の文化的・社会的側面に興味を持つ。現在の専門は環境人類学・相関地域研究。

● 基調講演 国境について考える
岩下明裕 (いわした・あきひろ)



北海道大学スラブ研究センター・教授
ユーラシア国際政治専攻。冷戦終結後の1990年前半から10年間にわたって中・ロ国境を現地調査し、境界研究に関する最初の単著『中・ロ国境4000キロ』角川選書(2003年)を刊行。『北方領土問題：4でも0でも、2でもなく』中公新書(2005年)で第6回大佛次郎論壇賞(2006年)および第4回日本学術振興会賞(2007年)を受賞。



シベリア永久凍土と地球環境
杉本敦子 (すぎもと・あつこ)

北海道大学大学院地球環境科学研究センター・教授
専門は生物地球科学。東シベリア(ロシア)において永久凍土とその上の生態系の観測・調査を行い、タイガ林や北極圏生態系と地球環境の関わりを調べている。他にも、モンゴルの草原-森林境界生態系や、東南アジア熱帯林生態系での観測研究も行う。

● 講演 中央ユーラシアの今を生きる



渡邊三津子 (わたなべ・みつこ)

総合地球環境学研究所・研究員
専門は地理学。中央ユーラシアのカザフスタンにおいて、ソ連時代・ポストソ連時代を通して、農業や牧業、地域を取り巻く景観がどのように変化しているか調査し、その変化の中で人々の生活や自然とのかわり方がどのように変化してきたか研究している。



極寒シベリアの暮らしと地球温暖化

藤原潤子 (ふじわら・じゅんこ)

総合地球環境学研究所・上級研究員
専門は文化人類学。ロシアで気候変動の地域社会への影響、交通途絶環境における暮らし、ポスト社会主義時代の宗教状況などに関する調査を行っている。



川下・風下から取り組む環境共同体構築の試み

白岩孝行 (しらいわ・たかゆき)

北海道大学低温科学研究所・准教授 / 総合地球環境学研究所・客員准教授
専門は雪氷学、自然地理学。オホーツク海や親潮が豊かな原因はアムール川流域からもたらされる鉄にあるという仮説を唱える一方、上流のロシアや中国で起こりつつある自然と社会の変化が、大河川や大気を通して風下の日本にやってくるようになった現在、日本はどのような対応を取ることが出来るのかを日々考えている。『魚附林の地球環境学』昭和堂(2011年)を執筆。

● パネルディスカッション 岩下明裕、杉本敦子、白岩孝行、藤原潤子、渡邊三津子

【司会】阿部健一



石川 守 (いしかわ・まもる)

北海道大学大学院地球環境科学研究センター・准教授
2001年、北海道大学大学院地球環境科学研究科修了。博士(地球環境科学)。自然地理学、凍土学、モンゴルの地域環境研究が専門。永久凍土の観測調査を中心に、森林動態、地形形成、水循環や社会背景など、幅広い研究を行っている。

● 閉会挨拶 立本成文 (たちもと・なりふみ) / 総合地球環境学研究所・所長

参加申込書

セミナーに参加ご希望の方は①郵便番号、②住所、③氏名(ふりがな)、④電話番号、⑤FAX番号またはe-mailをご記入のうえ、郵便はがき、FAXまたはe-mailで下記までお申込みください。定員になり次第締め切ります。

締切 2011年5月31日(火)

FAXでお申込みの方は右に必要な事項を記入し、そのまま送信してください。

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457-4
総合地球環境学研究所 総務課企画室

| | | | |
|-------|-----|--------|--|
| 住所 | 〒 - | | |
| ふりがな | | 電話番号 | |
| 氏名 | | e-mail | |
| FAX番号 | | | |

FAX

075-707-2106

e-mail

moshikomi@chikyuu.ac.jp

この申込みを通じて得た個人情報は、連絡業務のみに使用させていただきます。

【お問い合わせ先】

北海道大学 低温科学研究所

〒060-0819 札幌市北区北19条西8丁目

tel. (011) 706-7664

総合地球環境学研究所 総務課企画室

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457-4

tel. (075) 707-2173

北海道大学 学術交流会館小講堂

〒060-0811 札幌市北区北8条西5丁目

tel. (011) 706-2141

● JR線をご利用の場合

札幌駅北口から構内まで…(徒歩約10分)

● 地下鉄南北線をご利用の場合

さっぽろ駅から構内まで…(徒歩約10分)

